

学術研究助成事業の概要

	常葉大学
	社会環境学部
職名 講師	氏名 小河久志

研究課題：観光立県・静岡の実現に向けて－外国人観光客のニーズ把握と新たな観光資源の開発－

研究の概要と成果：

①研究概要

近年、外国人観光客の誘致に向けた動きが、政府を先導役に日本国内の様々な場所で見られるようになった。それは、世界文化遺産の富士山をはじめ、数多くの観光資源を有する静岡県においても同様である。しかし、静岡県における外国人観光客数の伸び率は決して高いとはいえない。その改善は、観光が静岡県の内発的発展に不可欠な産業となった現在、県をはじめとする地元の行政や観光産業界にとって喫緊の課題となっている。

本研究は、行政や観光産業界といった「ホスト」の側と、静岡県を訪れる外国人という「ゲスト」の側の双方に、静岡県の観光の現状と課題について聞き取りをはじめとする調査を行った。これにより、静岡県における外国人観光客の増加に資する具体的な方策の立案を試みた。

②研究成果

本研究は、インバウンド・ツーリズムをめぐる静岡県の現状と外国人にとっての静岡県の位置づけを明らかにした上で、来県する外国人観光客の増加に向けた方策の立案を行った（紙幅の都合上、詳細は添付した論文を参照されたい）。その成果は、1月31日に静岡県立大学で開催した研究会で発表し、観光学を専門とする外部講師らから高い評価を受けた。今後は、補足調査を行いつつ適宜、論文や学会発表といった形で本研究の成果を公表していく予定である。

## 観光立県・静岡の実現に向けて

### —外国人観光客のニーズ把握と新たな観光資源の開発—

小河久志（常葉大学）、奈倉京子（静岡県立大学）、富沢寿勇（静岡県立大学）、鈴木さやか（静岡県立大学）市野澤潤平（宮城学院女子大学）

#### 1. はじめに

日本におけるインバウンド市場が今日、隆盛を極めていることは言を俟たない。2014年度の訪日外国人数（約1974万人）やインバウンドによる観光収入（約3兆7000億円）が過去最高を記録したことや、日本への入国者数が45年ぶりに出国者数を上回ったことは、そのことを如実に示している。この動きは、政府による支援や急速な円安の進行、観光ビザの緩和、日本と海外を結ぶ格安航空会社の拡充、アニメやファッションといった日本文化への関心の高まりなど、政治・経済から文化に至るさまざまな領域の動きが複雑に絡み合って生起している。

他方で視点を静岡県に転じると、同県は伊豆や富士山といった多くの名所を抱えるなど古くから観光産業が盛んであった。加えて静岡県は、東京と大阪を結ぶ「ゴールデンルート」の中間地点に位置しており交通の要衝でもある。これらの点を踏まえるに、静岡県がインバウンド市場に対して持つ潜在力の大きさは疑う余地がないだろう。ところが実際には、多くの外国人観光客が静岡県を通過するか一時逗留のために立ち寄る傾向にある。英語圏で広い人気を誇るガイドブック『Lonely Planet』が静岡県内で取り上げているのが伊豆半島だけであるように [Rowthorn et.al. 2015]、静岡県は外国人から観光地としてほとんど認知されていない状況にあるといっても過言ではない。

以上の状況を踏まえて本研究は、行政や観光産業界といったホストの側と、静岡県を訪れる外国人、なかでも観光客総数で上位を占める中国、タイ、マレーシア等から来県したゲストの側の双方に、静岡県の観光の現状と課題について聞き取りをはじめとする調査を行っ

た<sup>1</sup>。この作業を通して、静岡県における外国人観光客の増加に資する具体的な方策の立案を試みた。本稿はその成果の一部をまとめたものである<sup>2</sup>。

## 2. 調査結果

本章は、行政と公共交通機関の関係者、ならびに来県した外国人を対象に行った調査の結果を記す。

まずは、行政と公共交通機関で実施した調査の結果を述べたい。この調査で明らかになったことの1つに、静岡県のインバウンドに対する強みと弱みがある。まず、強みとしてあげられたのは、富士山をはじめとした静岡県が持つ豊かな観光資源である。また、先にも指摘したゴールデンルートの中間地点に位置するという立地の良さも指摘された。旅館からホテルといった多様な形態の宿泊施設が県内各地に数多く存在していることも、宿泊に対する外国人観光客の多様なニーズに応えられるものとなっている。

他方で、静岡県のインバウンドに対する弱みとしては、以下の点が明らかになった。まずは、静岡県が持つ豊富な観光資源に関する情報を、海外に向けて十分に伝えられていないという情報発信力の低さである。先の『Lonely Planet』の事例からも分かる静岡県の知名度の低さは、このことと決して無縁ではないだろう。この他にも、交通インフラに関する問題を指摘できる。確かに静岡県は、ゴールデンルートの途上にあるため首都圏や関西圏、中京圏といった大都市圏からのアクセスは良い。しかし、県内に目を転じると状況は逆になる。観光に関していえば、大半の観光地が主要幹線から離れた場所にあり、かつそこに至るまでの交通手段（とくに公共交通）は限られている。いくら外国人観光客にとって魅力のある場所

---

<sup>1</sup> 受け入れ側の調査は静岡県観光局と富士山静岡空港、三島市観光協会、HIS静岡支店で、関係者への聞き取りを中心に行った。また、外国人調査は、観光客を対象とすることが困難であったことから、来県してまだ日の浅い留学生を対象にインタビューを実施した。これらの調査にご協力頂いた全ての皆様に心より御礼申し上げます。

<sup>2</sup> 本稿は研究期間の終了前に脱稿したため、そこに組み込めていない調査データがある。それについては別の機会に発表する予定である。

であっても、アクセスが悪ければ、そこに彼らを取り込むことは難しいだろう。

続いて外国人に行った聞き取り調査で得られた主なデータをまとめたい。まず見たいのは、静岡県内で彼らが訪問したことのある場所である。上位5つをあげると富士山、御殿場プレミアム・アウトレット、熱海、駿府城、ちびまる子ちゃんランドであった。ここからは、自然、ショッピング、テーマパーク、温泉、史跡と幅広い領域の観光地に外国人が訪れていることが分かる。同様の傾向は、静岡県内で外国人にとって魅力のある場所はどこか、という質問に対する回答にも見てとれる。その上位5つは、富士山、御殿場プレミアム・アウトレット、富士サファリパーク、熱海、和食料理屋、浅間神社であった。これらのデータは、静岡県内に外国人観光客の関心をひく幅広い領域の観光資源が存在していることを示していると言えるだろう。しかし、他方で、対象を日本に広げて、訪問したい場所を問うた際の回答結果を見ると、北海道（自然）、東京（ショッピング）、東京ディズニーランド（テーマパーク）、箱根（温泉）、京都（和食料理屋&史跡）と、その大半が県外で占められていた。なかには、「静岡には何もない」（Rさん、24歳、中国出身、女性）という回答や、箱根や富士急ハイランドといった観光地が静岡県にあると勘違いしているケース（Kさん、22歳、インドネシア出身、男性）も見られた。この事例からは、静岡県内の観光地は外国人にとって、他所のそれと比べて魅力が薄いということが分かる。この背景には、先に触れた静岡県のインバウンドに対する弱みが存在していることは容易に理解できる。

補足として、今回の調査で明らかになったタイ人観光客にとっての静岡県の大まかな位置づけを述べておきたい。まず、富士山は、彼らの中でも有名な観光地である。しかし、東京からのアクセスの悪さや、河口湖や富士急ハイランドといった富士山以外の観光名所の存在により、富士山を訪れるタイ人観光客の多くが、静岡県ではなく山梨県を訪問している。また、静岡県内にある富士山以外の観光地について知っている者は極めて少ない。第二に、タイ人観光客にとって静岡県は、観光する上で効率が悪い場所と認識されている。それは、時間や利便性、経費、観光コンテンツ等多くの面にわたっている。金銭的、時間的制約がある多くのタイ人観光客にとって、静岡観光の中心である富士山の景観は山

梨県の富士五湖エリア、伊豆は箱根で代替可能なのである。

### 3. 外国人観光客の増加に向けた方策

本章では、行政と公共交通機関の関係者、ならびに来県した外国人に行った聞き取り調査の結果を踏まえて、静岡県における外国人観光客の増加に向けたいくつかの方策を提示したい。

まず指摘できるのは、先にも触れた静岡県の観光資源に関する情報を海外に向けて伝える努力である。具体的には、行政をはじめとする観光関連機関等が外国語版のホームページを作るなどしてインターネットを通じた情報発信力を強化することや、外国人からの問い合わせへの対応体制を構築すること、ファムトリップ<sup>3</sup>を積極的に行うといったことがあげられる。また、海外駐在員事務所を活用して旅行会社をはじめとする現地の観光関連機関に静岡観光の情報を発信するなど、海外でのセールスを強化することも必要だろう。

情報を発信する一方で、外国人側が持つ情報を入手する努力が必要であることは言うまでもない。特に外国人が持つニーズを把握することは、静岡県におけるインバウンドの発展には不可欠である。そのためには、海外の観光関連機関との強固なネットワークの構築や、本研究のような来県した外国人を対象とした聞き取り調査の実施等が求められる。また、得られた情報を迅速に分析、検討し、それを形にしていく作業が必要である。外国人の多様なニーズに対応した旅行プログラムを策定することなどはその一つであろう。

交通網の整備も不可欠であろう。先述のように、静岡県内には主要幹線から外れた場所にある観光地が多い。これらの観光地から主要な駅や空港を結ぶ交通網が整備されれば、外国人観光客にとっての利便性が増す。

以上、静岡県における外国人観光客の増加に向けた方策をいくつか提示した。当然ながら、関係する諸アクターがこれらを単独で実施することは、不可能ではないが多額のコストや時間がかかるなど非効率的である。行政を中心に宿泊施設や旅行会社、公共交通機関

---

<sup>3</sup> ファムトリップとは、日本の官庁や地方自治体が海外の旅行業者やジャーナリストを招待するもの。

等が現状を認識した上で、連携して取り組むことが求められている。

参照文献

日本文芸社（編）

2015『インバウンド・ツーリズム ハンドブック：訪日外国人旅行者への対応と心得』

東京：日本文芸社。

Rowthorn, Chris et.al.

2015 *Lonely Planet Japan*, Melbourne:Lonely Planet Publications.

学術研究助成事業の概要

	大学	浜松医科大学
	学部	医学部健康社会学講座
職名	助教	氏名 柴田陽介

研究課題：地域在住高齢者の健康増進を目指した就業のあり方に関する研究

研究の概要と成果：

### 研究の概要

高齢者が就業することは健康維持・増進に繋がる可能性が示唆されているが、詳細な検討は少なく、国内外から関心が高い研究分野である。先行研究の多くは横断比較であり、就業状況と健康状態を検討する際に因果関係の追求には限界があった。そこで、本研究は過去の健康状態を考慮して現在の就業状況と健康状態を検討すること（縦断比較）を目的とした。

平成27年10～11月に65歳以上の掛川市民1,083名を対象に自記式郵送調査を行い、現在の就業状況と健康状況の情報を得た。平成21年度の基本チェックリストを用いて過去に健康状態が良い者を解析対象とした。現在の健康状態は「良い」を1点、「まあ良い」を2点、「普通」を3点、「あまり良くない」を4点、「悪い」を5点としてスコア化し、就業状況別にその平均値を比較した。

### 成果

就業者の健康状態の平均値は2.37、非就業者の平均値は2.72であり、就業者は非就業者に比べ健康状態が良いとの結果が得られた。

※論文を添付すること

## 地域在住高齢者の健康増進を目指した就業のあり方に関する研究

浜松医科大学  
医学部健康社会医学講座  
助教 柴田陽介

### 背景

先行研究<sup>1,2</sup>では、高齢者は生きがいや健康のために就労を希望する者が多い。しかし、就業状況と健康状態の関連について報告されたものは少ない。就業することが健康状態にどの程度関連するかを明らかにすることで、高齢者のより良い社会との関わり方についての提言へとつながる。

先行研究では横断研究が多く、そもそも健康状態が悪かったため就業できなかったという因果の逆転が否定できない。そこで過去の健康状態を考慮して就業状況と健康の関連を検討することが望まれている。

### 目的

本研究の目的は、過去の健康状態を考慮して、現在の就業状況と健康状態との関連を検討することである。

### 対象

- ・プラチナ世代の社会参加と健康状態の関係に関するアンケート調査（図1）

平成27年10～11月に65歳以上の掛川市民1,083名を対象に実施した調査である。調査方法は自記式郵送法で、回答が困難な者は家族などが代筆を行った。未回答者に対しては、協力依頼の書面を加えた郵便物を再度送付し、回収率の向上に努めた。回収率は93%であった。調査項目は、大学、掛川市役所、掛川市シルバー人材センターの意見を元に作成した。調査項目は主観的健康感と就業状況を含む。主観的健康感は「あなたの現在の健康状態を教えてください。（○は1つ）」との問いに「良い、まあ良い、普通、あまり良くない、良くない」を



選択する形式であった。就業状況は「あなたは現在、次のいずれかに加入・所属していますか。(〇はいくつでも)」との問いに「シニアクラブ(老人クラブ)、シルバー人材センター、会社・事業所(自営を含む)、いずれにも加入・所属していない」を選択するものであった。

#### ・しゃつきり度チェック(図2)

平成21年度に掛川市が行った基本チェックリストである。基本チェックリストとは、介護予防事業の一環として65歳以上の者を対象に介護認定を受けていないが、近い将来要支援・要介護になる可能性がある者(二次予防事業対象者)を選定するためのチェックリストである。運動、栄養、口腔、閉じこもり、認知症、うつの状態に関する25個の質問に回答することで、二次予防事業対象者の判定を行うことができる。

### 解析方法

過去に健康だった者を対象にして、現在の就業状況と健康状態との関連について検討を行った。過去に健康だった者を選ぶために、しゃつきり度チェックを用いて平成21年度に二次予防事業対象者に該当する者を除外した。現在の健康状態は、「良い」を1点、「まあ良い」を2点、「普通」を3点、「あまり良くない」を4点、「悪い」を5点としてスコア化した。現在の就業状況は「会社・事業所(自営を含む)」を選択した者を就業者、選択しなかった者を非就業者と定義した。就業状況別に健康状態の平均値を求め、独立したサンプルのt検定により検討を行った。有意水準を5%未満とし、解析にはIBM SPSS Statistics 22を用いた。

### 結果

就業者の健康状態の平均値(標準偏差)は2.37(0.94)、非就業者の平均値は2.72(1.00)であり、就業者の方が有意に健康状態は良いとの結果だった( $p=0.02$ )(図3)。

## 考察

過去に健康だった者のみを対象にして、現在就業している者としていない者を比較したところ、就業している者は健康状態が良いとの結果だった。

先行研究<sup>3</sup>では、短期的な就業によって身体活動量が増加し体脂肪量が減少したとの報告がなされている。本研究でも、就業することが身体活動量の増加に寄与し、健康状態が良くなった可能性が示唆される。また、就業することが生きがいとなり精神的な健康増進に寄与した可能性や、他者との関わりが増えたことで社会的な健康増進に貢献した可能性も推察される。<sup>4</sup>

さらに、幾つかの追加解析も行った。年齢が交絡要因となっている可能性があるため、平均年齢で2群に層化（若年群と高齢群）して同様の解析を行った。若年群では就労している者は健康状態が良いとの同様の結果であり、統計学的な有意な差も見られた。高齢群では就業者の人数が少なかったため、統計学的な有意差には至らなかったが同様の傾向であった。また、過去に二次予防事業対象者だった者を除外した解析に加えて、二次予防事業対象者のみを対象に同様の解析を行った。その結果、就業している二次予防事業対象者が数名と少なかったため、統計学的な有意差は見られなかったが、やはり就業している者は健康状態が良い傾向だった。すなわち、年齢や過去の健康状態にかかわらず、就業することは高齢者の健康増進に寄与する可能性が示唆される。

本研究の強みは、過去の健康状況を考慮した縦断解析を行ったことである。先行研究の多くは横断研究であり因果の逆転を否定できなかったが、本研究では過去に二次予防事業対象者だった者を除外することで対応した。また、本研究は地域在住高齢者を対象にした調査であり回収率も高かった。老人クラブなど特定の団体を対象にした研究は散見するが、本研究結果は地域の高齢者の実情をより表していると考えられる。一方で、業種や働き方など就業に関する詳細な要因やスポーツなどの就業以外の要因を考慮した検討には至っていない。これらについては今後より詳細な検討を行う予定である。

## まとめ

本研究により、高齢者が就業することは健康増進に寄与していると示唆された。今後は働き方など就業に関する詳細な要因やスポーツなど就業以外の要因も含めた検討を行うことで、高齢者の健康増進に対するより良い提言につなげていく。

## 倫理

本研究は浜松医科大学医の倫理委員会による承認（第 E15-213 号）を受けて実施した。

## 参考文献

1. 内閣府. 平成 27 年度国民の生活に関する世論調査. 2015.
2. 南潮、鈴木宏幸、倉岡正高、小林江里香、深谷太郎、内田勇人、藤原佳典. 都市部における新たな高齢者向け就労支援施設の取り組み. 日本公衆衛生雑誌、62 (6) ; 281-293、2015.
3. 鈴木政司、田中友規、柴崎孝二、秋山弘子、飯島勝矢. シニア世代の就労を介した身体活動量の増加と体組成への改善効果. 日本未病システム学会雑誌、20 (1) ; 94-98、2014.
4. 高燕、星旦二、中山直子、高橋俊彦、栗盛須雅子. 都市在宅前期高齢者における就労状態別にみた 3 年後の累積生存率. 社会医学研究、26 (1) ; 1-8、2008.

〒

様  
会員様

★プラチナ世代の社会参加と健康状態の  
関係に関するアンケート調査★  
【調査票】

調査票記入後は、掛川市シルバー人材センター 掛川事務所、  
または南部事務所へ11月6日（金）までに提出してください。

調査票を記入されたのはどなたですか。  
○をつけてください。

1. あて名のご本人が記入
2. ご家族が記入  
(あて名のご本人からみた続柄\_\_\_\_\_)
3. 上記以外の方が記入  
( \_\_\_\_\_ )

公益社団法人 掛川市シルバー人材センター  
掛川市 高齢者支援課

図1 プラチナ世代の社会参加と健康状態の関係に関するアンケート調査

**はじめに、ご本人のことについてお伺いします。**

問1 あなたと一緒に住まいの方はどなたですか。(〇はいくつでも)

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| 1 ご本人のみのひとり暮らし  | 2 夫又は妻 (内縁を含む)      |
| 3 子ども (息子)      | 4 子ども (娘)           |
| 5 子どもの配偶者       | 6 孫                 |
| 7 親 (夫又は妻の親を含む) | 8 兄弟姉妹 (夫又は妻の兄弟を含む) |
| 9 その他 ( )       |                     |

問2 あなたの婚姻状態は、次のうちのどれにあてはまりますか。(〇はいくつでも)

- |                    |      |
|--------------------|------|
| 1 配偶者がいる (内縁関係を含む) | 2 死別 |
| 3 離別               | 4 未婚 |
| 5 その他              |      |

問3 あなたのこれまでの仕事の中で、最も長く勤めた職種を教えてください。

(〇は1つ)

- |               |            |
|---------------|------------|
| 1 専門・技術職      | 2 管理職      |
| 3 事務職         | 4 販売・サービス職 |
| 5 技能・労務職      | 6 農林・漁業職   |
| 7 農林・漁業以外の自営職 | 8 その他 ( )  |
| 9 職に就いたことがない  |            |

問4 あなたの教育歴を教えてください。(〇はいくつでも)

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1 小学校(尋常小学校、国民学校初等科) | 2 中学校(尋常高等小学校、国民学校高等科) |
| 3 高校(旧制中学校)          | 4 高専(旧制中学校)            |
| 5 大学(旧制高校)           | 6 大学院                  |
| 7 専門学校               | 8 その他 ( )              |

**健康についてお伺いします。**

問5 あなたの現在の健康状態を教えてください。(〇は1つ)

- |        |           |
|--------|-----------|
| 1 良い   | 2 まあ良い    |
| 3 普通   | 4 あまり良くない |
| 5 良くない |           |

問31 あなたは現在、次のいずれかに加入・所属していますか。(○はいくつでも)

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 1 シニアクラブ (老人クラブ) | 2 シルバー人材センター      |
| 3 会社・事業所 (自営を含む) | 4 いずれにも加入・所属していない |

問32 配偶者 (内縁関係を含む) と同居されている方に伺います。あなたの配偶者 (内縁関係を含む) は現在、次のいずれかに加入・所属していますか。(○はいくつでも)

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 1 シニアクラブ (老人クラブ) | 2 シルバー人材センター      |
| 3 会社・事業所 (自営を含む) | 4 いずれにも加入・所属していない |

問31で「1 シニアクラブ (老人クラブ) に加入している」と回答した方は問33へ

「2 シルバー人材センターに加入している」と回答した方は問35へ

「3 会社・事業所 (自営を含む) に所属している」と回答した方は問39へ

「4 いずれにも加入・所属していない」と回答した方は問42へ

「1 シニアクラブ (老人クラブ) に加入している」と回答した方に伺います。  
(問33～問34)

問33 シニアクラブ (老人クラブ) に入会した動機はなんですか。(○はいくつでも)

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 1 生きがいづくり          | 2 頭や体をなまらせないため |
| 3 家にずっといるのは嫌だから    | 4 時間的余裕        |
| 5 もっと社会に役立ちたいと思うから | 6 その他 ( )      |

問34 シニアクラブ (老人クラブ) に入会して何年になりますか。(○は1つ)

- |            |            |
|------------|------------|
| 1 1年未満     | 2 1～5年未満   |
| 3 5～10年未満  | 4 10～15年未満 |
| 5 15～20年未満 | 6 20年以上    |

回答後、問42へお進みください。

「2 シルバー人材センターに加入している」と回答した方に伺います。  
(問35～問38)

問35 シルバー人材センターに入会した動機は何ですか。(○はいくつでも)

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1 生きがいづくり          | 2 頭や体をなまらせないため     |
| 3 家にずっといるのは嫌だから    | 4 時間的余裕            |
| 5 もっと社会に役立ちたいと思うから | 6 経済的理由、老後の生活資金のため |
| 7 その他 ( )          |                    |

1	バスや電車で1人で外出していますか	0. はい 1. いいえ
2	日用品の買い物をしていますか	0. はい 1. いいえ
3	預貯金の出し入れをしていますか	0. はい 1. いいえ
4	友人の家を訪ねていますか	0. はい 1. いいえ
5	家族や友人の相談にのっていますか	0. はい 1. いいえ
6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0. はい 1. いいえ
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0. はい 1. いいえ
8	15分間位続けて歩いていますか	0. はい 1. いいえ
9	この1年間に転んだことがありますか	1. はい 0. いいえ
10	転倒に対する不安は大きいですか	1. はい 0. いいえ
11	6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少はありましたか	1. はい 0. いいえ
12	BMI	1. 18.5未満 0. 18.5以上
13	半年前に比べて堅いものが食べにくくなりましたか	1. はい 0. いいえ
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい 0. いいえ
15	口の渇きが気になりますか	1. はい 0. いいえ
16	週に1回以上は外出していますか	0. はい 1. いいえ
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. はい 0. いいえ
18	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	1. はい 0. いいえ
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0. はい 1. いいえ
20	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい 0. いいえ
21	(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	1. はい 0. いいえ
22	(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1. はい 0. いいえ
23	(ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1. はい 0. いいえ
24	(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	1. はい 0. いいえ
25	(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	1. はい 0. いいえ

以下のいずれかの場合、二次予防事業対象者と判定する

- 1~20の合計が10点以上
- 運動(6~10)が3点以上
- 栄養(11~12)が2点以上
- 口腔(13~15)が2点以上
- 閉じこもり(16~17)が1点以上
- 認知症(18~20)が1点以上
- うつ(21~25)が2点以上

図2 基本チェックリスト

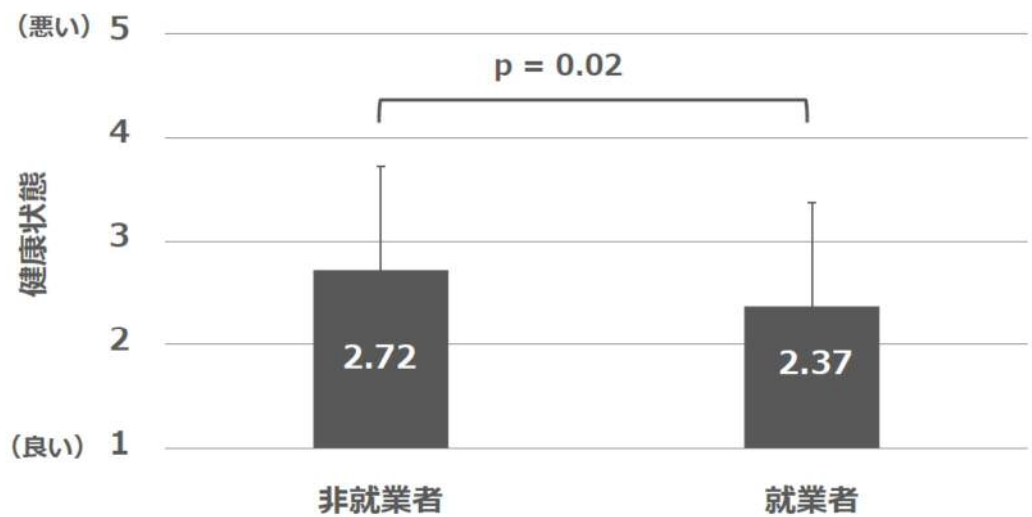


図 3 就業状況別の健康状態